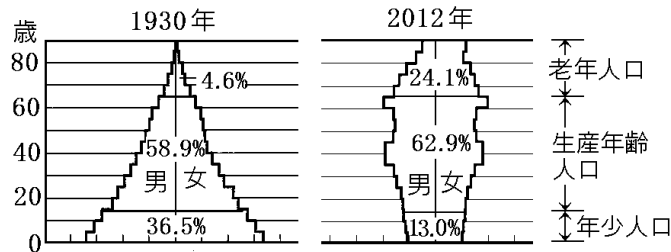


第9章	社会(地理)	名前:	日付	No.03
	人口			

[問題 1]

次のグラフは日本の人口ピラミッドである。これについて、下の文章の①～③にあてはまる語句を答えよ。ただし、①、②はグラフ中の語句で答えよ。



1930年に比べて2012年は、(①)人口の割合が大きく増え、(②)人口の割合が大きく減っている。このことは、(③)化と少子化が進んでいることを示している。

[解答欄]

① 老年	② 年少	③ 高齢
------	------	------

[解説]

[少子高齢化]
 老年人口(65歳～): 増加 → 高齢化
 生産年齢人口(15～64歳)
 年少人口(～14歳): 減少 → 少子化
 ↑
 出生率の大幅低下

老年人口の割合が **7%** を超えると、人口の **高齢化** が進んでいる社会といわれる。日本では、1970 年ごろに老年人口が **7%** をこえ、現在(2012 年)の老年人口は **24.1%** になっている。今後はもっと高齢化が進むと予想されている。日本は他の欧米諸国と比較して、高齢化の進行速度が非常に速い。

また、出生率は年々低下し、いわゆる **少子化** も進んでいる。

(統計修正)「日本国勢図会 2013/2014」P57

[問題 2]

日本の人口について、次の各問いに答えよ。

- (1) 右のグラフは、日本の年齢別人口の割合の変化を示したものである。グラフのA～Cのうち、0～14歳の人口はどれか、記号で答えよ。
- (2) (1)の割合が、グラフに示されているように変化してきていることを何というか。

	A	B	C
1950年	35.4%	59.7	4.9
1970	23.9	69.0	7.1
1990	18.2	69.7	12.1
2012	13.0	62.9	24.1

[解答欄]

(1) A	(2) 少子化
-------	---------

(統計修正)「日本国勢図会 2013/2014」P57

[問題 3]

次の文の①～③に適語を入れよ。

老年人口の比率が(①)%を越えると、普通、人口の(②)化が進んでいるといわれるが、現在はすでに約 24%になっている。今後はもっと(②)化が進むと予想されている。また、出生率も低い水準にあり、いわゆる(③)化も進んでいる。

[解答欄]

① 7	② 高齢	③ 少子
-----	------	------

[問題 4]

世界一の長寿国はどこか。次の[]から選べ。

[日本 エチオピア アメリカ スウェーデン]

[解答欄]

日本

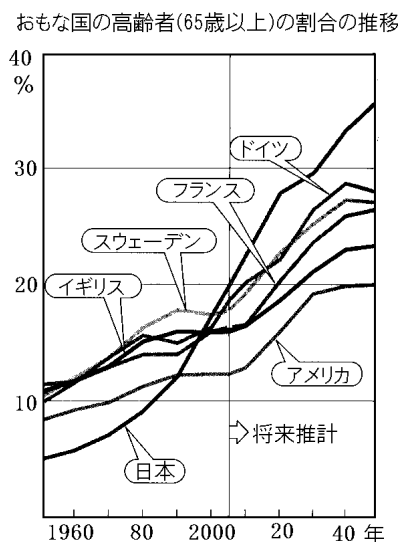
[解説]

2011 年現在、平均寿命が最も長いのは日本で、男子が 79 歳、女子が 86 歳である。

(統計出典)「日本国勢図会 2013/2014」P483

[問題 5]

次のグラフは、各国の 65 歳以上の人口の増加率を示している。このグラフから、日本は諸外国に比べてどんな特徴があるといえるか、簡潔に説明せよ。



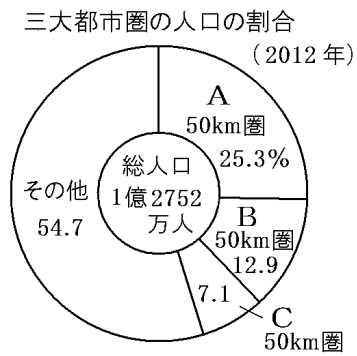
[解答欄]

他の欧米諸国と比較して、高齢化の進行速度が非常に速い。

[問題 6]

次の資料は、日本の人口にしめる三大都市圏の 50km 圏内の人口の割合である。

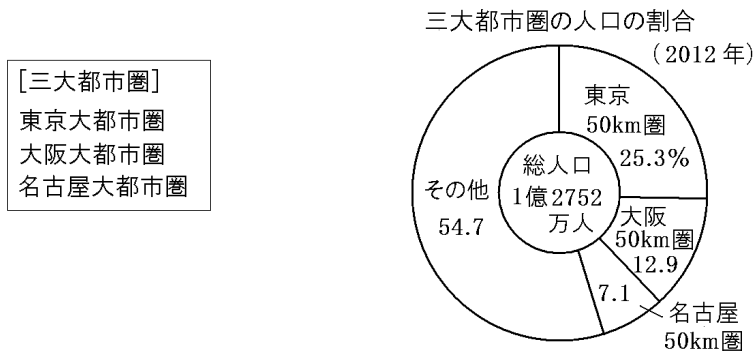
A～C にあてはまる語句を答えよ。



[解答欄]

A 東京	B 大阪	C 名古屋
------	------	-------

[解説]



第二次世界大戦後から高度経済成長期にかけて都市への人口集中がすすんだ。

日本の人口集中が目立つ三大都市圏は、東京大都市圏、大阪大都市圏、名古屋大都市圏である。

(統計出典)「日本国勢図会 2013/2014」P67

[問題 7]

次の各問いに答えよ。

(1) 都市で起こる住宅不足や交通渋滞などの問題を何というか。漢字 2 字で答えよ。

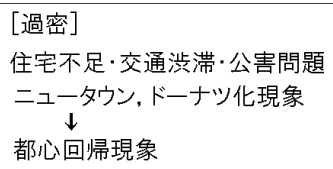
(2) 山間部や離島で、人口減少にともない社会生活が送りにくくなった地域がある。

そのことを何というか。漢字 2 字で答えよ。

[解答欄]

(1) 過密	(2) 過疎
--------	--------

[解説（過密）]



ある地域に人口や建物などが集中しすぎることを過密という。とくに、東京は、政治や経済などの様々な中心が集まっている(一極集中)ため、過密地域になっている。

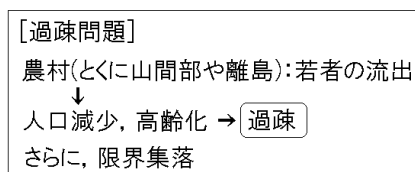
日本の大都市の中心部には、官庁・企業のオフィス・商業施設が集まり、そのまわりには住宅地が広がっている。この住宅地の多くも 1km²あたりの人口密度が 1 万人を超える過密地域になっている。

このような過密地域では、住宅不足、交通渋滞、公害問題などが深刻である。

都心部の地価が上昇し、人々は、比較的安い土地が得られる郊外のニュータウンなどに住むようになった。その結果、都心部の人口が減少する一方で郊外の人口が増加し、人口が都心を中心にしてドーナツのように分布するようになった。この現象をドーナツ化現象という。(東京や大阪の中心部の昼間人口が夜間人口よりも多いのは、昼間、通勤や通学で都市の中心部へ来ていた人が、夜は周辺の郊外へ帰るからである。)

ただ、バブル経済が崩壊した 1990 年代以降、地価が安定してきたこともあって、再開発された都心部の高層住宅に住む人が増える都心回帰現象も見られるようになっている。

[解説（過疎）]



農村(とくに、山間部や離島)では、若い人が仕事を求めて都会に出て行き、人口の減少と高齢化が進んでいる。その結果、経済活動がおとろえ、病院や学校などの社会施設の運営が困難になり、バスや鉄道などの公共交通機関も採算がとれなくなって廃止されて、社会生活が成り立たなくなってしまう。このように、地域の人口が減少することにより、地域住民の生活が成立しなくなる現象を過疎といい、そのような地域を過疎地域という。過疎地域の中には、高齢化が極端に進み、65 歳以上の人口が過半数をしめる集落もある。このような集落を限界集落という。

このような過疎問題に対し、大分県の一村一品運動のように、地域の産物や自然を生かした町おこし・村おこしがさかんになっている。観光地の開発・山村留学に力を入れる村も出てきている。